

子どもたちの未来の一步を応援する、いのちの授業 石岡二高に、赤ちゃんがやってきた！



◀参加した女性は「高校生が、かわいいとニコニコしながら言ってくれと、自分自身とても嬉しい気持ちになれ、明日からも育児を頑張ろうと思えます」と話しました。

石岡第二高等学校の普通科と生活デザイン科の2年生190人を対象に、「赤ちゃんが学校にやってくる～いのちと出会う・感じる授業（略称 赤ちゃん学校）」が開催されました。

この授業は「子どもたちには未来の子育てが、ママ・パパには現在の子育てが、ともに明るく輝きますように」がコンセプト。いのちが成長する力、子育てという営みの貴重さを世代間の交流を通じて双方に感じてもらうことを目的としたプログラムで、NPO法人ままとーん代表の中井聖さんによる誕生学講座と、赤ちゃんとのふれあい体験の2部構成となっています。

NPO法人ままとーんは、県南地区の子育て中の女性たちが中心になって、情報誌や親子向けイベントなどを行っている団体です。赤ちゃん学校がスタートしたのは2012年で、すでに100校近くで実施してきました。平成30年度

には茨城県の事業に採択され、この取り組みを広げるべく、NPO法人水戸こどもの劇場とともに、開催地の子育てサークルと連携しながら事業を行っています。

今回は、市内で子育て中のママとパパも多数参加し、合計15組の親子がゲストスピーカーとして、自らの出産・育児の経験を話しました。

生活デザイン科主任の久保田先生は「赤ちゃんを抱っこした経験がない高校生も多いなか、赤ちゃん学校を体験して、自分自身を大切な存在であると実感することが、生徒たちにとっての未来の一步につながると考えています」と話しました。石岡二高では平成27年度から『筑翠^{ちくすい}レネサンス』を掲げ、生徒一人ひとりの未来への一步を支援する授業を展開しています。今回は、その一環として実施し、今後もこのような授業を継続して実施していく予定です。

6 / 14

石岡の忠犬 タローを伝える



昭和40年代、石岡駅ではぐれた飼い主を待ち続けていた忠犬タローは、東小学校の児童たちにも可愛がられていました。

青少年を育てる石岡市民の会東支部では、この物語を子どもたちに伝えようと、タローの物語を歌にした山本恵莉子さんらと共に、東小3年生を訪問。児童たちは、歌や踊りと共にタローの物語に耳を傾けていました。

5 / 20

文京区と石岡市の 民生委員が意見交換



東京都文京区と石岡市は、平成8年から「災害時応援協定」を締結しています。これは、災害救助に必要な職員派遣や被災住民の受け入れなどで相互に協力しあうというもの。

このようなつながりから、文京区の23人の民生委員が石岡市を視察に訪れ、東地区の民生委員・市民生委員連合会役員など34人と意見交換を行いました。今年で2回目を迎えます。

7 / 4

災害時の情報収集 頼りになるラジオ放送



大規模な地震や風水害など、石岡市が自然災害の被害を受けたときや、その恐れがあるとき、市内外にいる市民に向けて、防災情報を発信するため、株式会社茨城放送（代表取締役 北島重司氏）と放送要請に関する協定を結びました。

東日本大震災以降、茨城放送は「防災ラジオステーション」として防災に取り組み、本協定も、その一環として実施されました。

6 / 7

石岡駅前に、 黄色いポストが出現！



9月末に迫った「いきいき茨城ゆめ国体」をPRするためのラッピングポストが完成し、石岡駅前に設置されました。

除幕式では市内の幼稚園児が集まり、自分の手形を押した応援メッセージを投函しました。園児たちの応援メッセージは、8月7日から市役所本庁舎で特設展示を行い、国体当日には会場内で披露する予定です。